



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2024/05/15
SDS整理番号 16156130

製品等のコード : 1615-6130、1615-6160

製品等の名称 : フロログルシニン二水和物

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途 (当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。) アゾ染料中間体、防腐剤、医薬、紫外線吸収剤原料、食品添加物 など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

可燃性固体 : 区分に該当しない
自然発火性固体 : 区分に該当しない

健康に対する有害性

急性毒性 (経口) : 区分に該当しない [区分5(国連GHS分類)]
皮膚腐食性/刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2B

注意喚起語: 警告

危険有害性情報

飲み込むと有害のおそれ (経口)
皮膚刺激
眼刺激

注意書き

【安全対策】

取扱い後は、よく手を洗うこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

【応急措置】

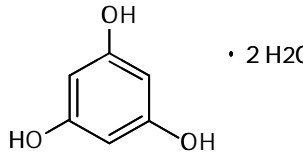
皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹼で洗うこと。
眼に入った場合: 水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。
皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察、手当を受けること。
眼の刺激が続く場合: 医師の診察、手当を受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

直射日光を避け、容器を密閉して冷暗所に保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。



（注）物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	：	化学物質
化学名	：	フロログルシニン二水和物 （別名）ベンゼン-1,3,5-トリオール二水和物、 1,3,5-トリヒドロキシベンゼン二水和物、 フロログルシノール二水和物 （英名）Phloroglucinol dihydrate Benzene-1,3,5-triol dihydrate、 1,3,5-Trihydroxybenzene dihydrate
成分及び含有量	：	フロログルシニン二水和物、-----
化学式、構造式	：	C6H3(OH)3·2H2O、 C6H3(OH)3·2H2O、 C6H6O3·2H2O、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	：	162.14
官報公示整理番号	：	(3)-554
化審法 安衛法	：	公表化学物質（化審法番号を準用）
CAS No.	：	6099-90-7
EC No.	：	未登録
危険有害成分	：	フロログルシニン二水和物

4. 応急処置

吸入した場合	：	呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の治療を受ける。
皮膚に付着した場合	：	皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は医師の処置を受ける。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	：	直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。 まぶたを親指と人さし指で拡げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用して固着していなければ除去し洗浄を続ける。 目の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	：	口をすすぎ、うがいをする。 大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 意識がない時は、何も与えない。 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状	：	情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	：	本製品は可燃性である。 二酸化炭素、粉末消火剤、散水、噴霧水、泡消火剤 大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
使ってはならない消火剤	：	棒状放水（本品があふれ出て、火災を拡大するおそれがある。）
特有の危険有害性	：	火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。 加熱により容器が爆発するおそれがある。
特有の消火方法	：	火元への燃焼源を遮断する。 火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
消火を行う者の保護	：	消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	：	漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。 皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。 風上から作業し、粉じん、蒸気、ミストなどを吸入しない。 粉じん、蒸気が飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
環境に対する注意事項	：	河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
回収、中和	：	飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。

- 封じ込め及び浄化の方法・機材： 後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
 二次災害の防止策： 危険でなければ漏れを止める。
 : 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
 : 周辺の発火源を速やかに取除く。
 : 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い
 技術的対策： 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
 粉じん、蒸気、ミストなどの発生を防止する。
 粉じんの堆積を防止する。
 局所排気・全体換気： 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
 安全取扱い注意事項： 裸火禁止。
 酸化剤との接触禁止。
 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの
 取扱いをしてはならない。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
 取扱い後はよく手を洗う。
 接触回避： 湿気、水、高温体との接触を避ける。
 保管
 技術的対策： 保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作る。
 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不
 燃材料でふき、かつ天井を設けない。
 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とする。
 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜
 をつけ、かつ、適切なためますを設ける。
 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明
 及び換気の設備を設ける。
 保管条件： 日光や高温多湿を避けて保管する。
 容器を密閉して冷暗所に保管する。
 混触危険物質： 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
 容器包装材料： 強酸化剤
 : ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラスなど

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度： 設定されていない。
 許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）： 設定されていない。
 日本産衛学会： 設定されていない。
 ACGIH： 設定されていない。
 設備対策： この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置
 する。
 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
 保護具
 呼吸器の保護具： 呼吸器保護具（防じんマスク）を着用する。
 手の保護具： 保護手袋（塩化ビニル製、ニトリル製など）を着用する。
 眼の保護具： 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用
 する。
 皮膚及び身体の保護具： 長袖作業衣を着用する。
 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
 衛生対策： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
 取扱い後はよく手を洗う。
 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態
 性状： 結晶
 色： 白色
 臭い： 無臭
 pH： データなし
 融点： 217~219
 凝固点： データなし
 沸点： 分解
 引火点： データなし
 可燃性： 可燃性
 爆発範囲： データなし

蒸気圧	： データなし
相対ガス密度（空気 = 1）	： データなし
密度又は相対密度	： データなし
比重	： データなし
溶解度	： 水に溶けにくい（0.1%、20℃）。 エタノールに溶ける（10%）。 ジエチルエーテルに溶ける。
オクタノール/水分配係数	： データなし
発火点	： データなし
分解温度	： データなし
粘度	： データなし
動粘度	： データなし
粒子特性	： データなし
GHS分類	
可燃性固体	： 易燃性を有せず、また、摩擦により発火あるいは発火を助長する恐れがなく、さらに、国連危険物輸送勧告（UNRTDG）のクラス4.1（可燃性固体）にも該当しない非危険物であることから、区分外とした。
自然発火性固体	： 常温の空気と接触しても自然発火しないことから、区分外とした。

10. 安定性及び反応性

安定性（反応性・化学的安定性）	
危険有害反応可能性	： 通常の取扱条件において安定である。 強酸化剤と混触すると反応することがある。
避けるべき条件	： 高熱、日光
混触危険物質	： 強酸化剤
危険有害な分解生成物	： 一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性	： 経口 ラット LD50 = 4000 mg/kg から、区分5（国連GHS分類）。ただし、分類JISでは区分に該当しない。飲み込むと有害（経口）のおそれ（区分5） 経皮 分類できない。 吸入（蒸気） 分類できない。 吸入（粉じん） 分類できない。
皮膚腐食性/刺激性	： 皮膚に対し刺激性があるため、区分2とした。 皮膚刺激（区分2）
眼に対する重篤な損傷/刺激性	： 眼に対して刺激があるため、区分2Bとした。 眼刺激（区分2B）
呼吸器感受性	： 分類できない。
皮膚感受性	： 分類できない。
生殖細胞変異原性	： 分類できない。
発がん性	： 分類できない。 知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際評価機関の報告がないため、分類できない。
生殖毒性	： 分類できない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	： 分類できない。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	： 分類できない。
誤えん有害性	： 分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期(急性)	： 分類できない。
水生環境有害性 長期(慢性)	： 分類できない。
残留性・分解性	： データなし
生物蓄積性	： データなし
土壤中の移動性	： データなし
オゾン層への有害性	： 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	： 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。 都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して
-------	---

廃棄物処理を委託する。
 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
 （参考）燃焼法
 可燃性の溶剤に溶かし噴霧するか、又はケイソウ土、木粉（おが屑）等に混合または吸収させて、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室で焼却する。
 汚染容器及び包装：内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

国内規制（適用法令）
 陸上規制：特段の規制なし（非危険物）
 海上規制：特段の規制なし（非危険物）
 航空規制：特段の規制なし（非危険物）
 国連番号：非該当
 国連分類：非該当
 品名：非該当
 海洋汚染物質：非該当
 MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類：非該当
 特別の安全対策：輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
 重量物を上積みしない。

15. 適用法令

労働安全衛生法：非該当。
 なお、令和6年4月1日施行、令和7年4月1日及び令和8年4月1日施行予定の表示・通知対象物の追加物質にも非該当
 （法第57条、法第57条の2）
 また、皮膚等障害化学物質やがん原性物質にも非該当
 （安衛則第594条の2、安衛則第577条の2）
 毒物及び劇物取締法：非該当
 消防法：非該当
 化学物質排出管理促進法（PRTR法）：非該当〔2023年（R5年）4月1日施行の法改正にも非該当〕
 船舶安全法：非該当
 航空法：非該当
 海洋汚染防止法：非該当
 水質汚濁防止法：指定物質（施行令第三条第三項）
 「フェノール類及びその塩類」
 輸出貿易管理令：キャッチオール規制（別表第1の16項）
 HSコード：2907.29
 第29類 有機化学品
 ・輸出統計番号（2024年1月版）：2907.29-000
 「フェノール及びフェノールアルコール
 - 多価フェノール及びフェノールアルコール：その他のもの」
 ・輸入統計番号（2024年4月1日版）：2907.29-000
 「フェノール及びフェノールアルコール
 - 多価フェノール及びフェノールアルコール：その他のもの」

16. その他の情報

（注）本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献：
 化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ 化学工業日報社
 労働安全衛生法MSDS対象物質全データ 化学工業日報社(2007)
 化学物質の危険・有害便覧 中央労働災害防止協会編
 化学大辞典 共同出版
 安衛法化学物質 化学工業日報社
 産業中毒便覧(増補版) 医歯薬出版
 化学物質安全性データブック オーム社
 公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編) 三共出版
 化学物質の危険・有害性便覧 労働省安全衛生部監修

Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。